

Iris

●ギリシア神話

# イリス

ギリシア神話最凶のストーカーオヤジ  
大神ゼウスに目をつけられた美少女  
果たしてその貞操は守られるのか？

## 背に羽根の生えた虹の女神

雨上がりに虹が出ているのを見つけたら、じっと目を凝らしてみよう。きっとその上に、羽の付いたサンダルで軽やかに歩いている少女の姿が見つかるはずだ。彼女の名はイリス。神々のメッセージを運ぶ虹の女神である。

イリスは、かつては神々の一員ではなく、ゼウスの妻ヘラに仕える人間の少女だった。だがそんな身近なところにいる美しい少女を、好色ぶりで知られるゼウスが見逃すはずもない。呼吸をするように自然に大神の魔の手は美少女に伸びた。が、あやういところで難を逃れたイリスはヘラに泣きつく。ヘラは神酒ネクタールを振りかけ、イリスを不死の神とすると同時に背に羽根をはやしてやった。その後もゼウスは機会があればイリスにちょっかいを出そうとしたが、イリスはそのたびに羽根を使って飛び、女の子の大切なものを守り通したのだ。

さて女神となったイリスは、神々のメッセンジャーとして、冥界、海底、眠りの王の宮殿にいたるまで、世界のあらゆる場所を駆け巡った。後に彼女は風の神の一人、西風のゼピュロスと結婚しているが、その後もゼウスのために迷惑をこうむっている。あるときゼウスは自分の浮気を隠すため、アフロディテとのあいだに生まれた息子エロスを、イリスとゼピュロスの子供だと触れてまわったのだ。なにしろ嫉妬深いことで知られるヘラのこと、この旦那の浮気隠蔽工作を知って、黙っているわけが無かった。ヘラは、この噂を流れるままにして一言も弁解しないイリスを激しく問い詰めた。だがそれでもイリスは抗弁せず、ただ涙を流し、その後、ヘラに黙って微笑みかけた。この輝く虹のような微笑みを目の当たりにしたヘラは、健気な侍女を問い詰めるのを思いとどまったのだった。オリュポスの記録によれば、ヘラが相手に憎んだ相手に罰を与えなかったのは、これが初めてのことだったという。

